

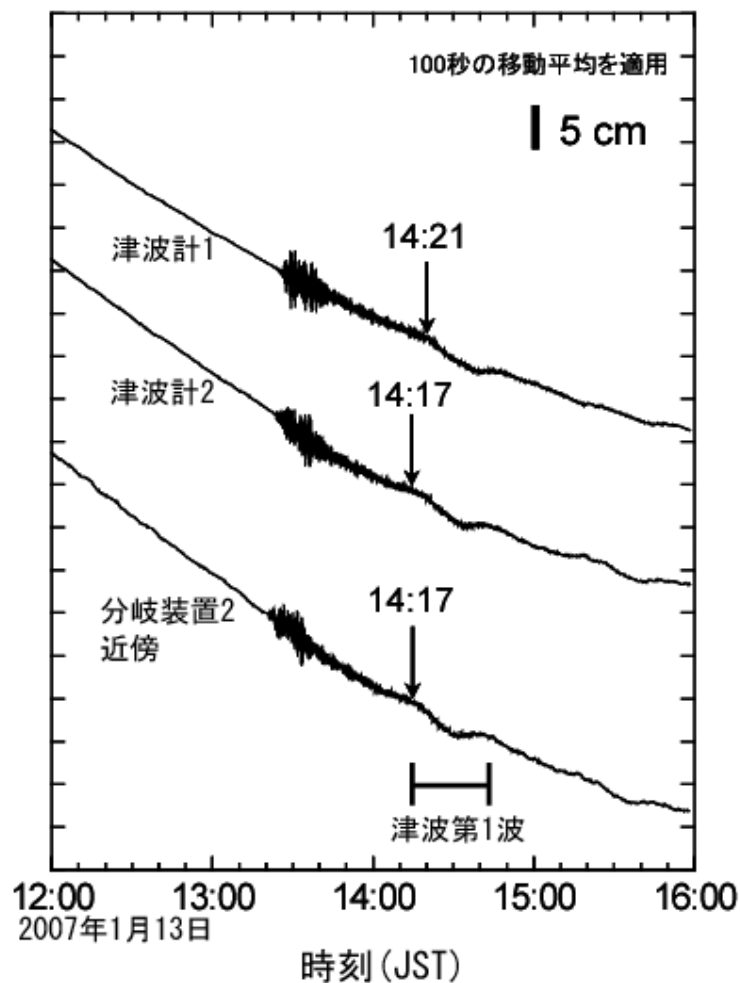
釧路・十勝沖「海底地震総合観測システム」で捉えた
2007年1月13日千島列島東方地震に伴う津波

1月13日13時24分ころに千島列島東方（北西太平洋）に発生したマグニチュード8.2（気象庁発表暫定値）の地震に伴い津波が発生しました。

当機構が北海道釧路・十勝沖に設置している海底ケーブル型観測システム「海底地震総合観測システム」の2台の津波計及び分岐装置2近傍に取り付けられた水圧計により、この津波が観測されました。

津波の第一波は、津波計2（水深2210m）および分岐装置2（水深2069m）近傍では14:17に、次いで津波計1（水深2218m）では14:21に観測されました。

これは、昨年11月15日に発生した千島列島沖地震の際と同様に、北海道沿岸での観測（根室市花咲で14:38。気象庁報道発表資料による。）よりも、20分ほど早く観測されたこととなります。また、当観測システムにより観測されたこの津波の最大波高は約1cmでした。



釧路・十勝沖「海底地震総合観測システム」が捉えた津波の記録（海洋工学センター 松本研究員による）。矢印は各センサーがとらえた津波の到達時刻を示す。